

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜盲学校

学校番号	101
------	-----

自己評価

学校教育目標	障がいによる学習上または生活上の困難を克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身に付け、社会に貢献できる児童生徒を育成する。	
評価する領域・分野	教務情報部「教務」「情報」	
現状及びアンケートの結果分析等	(1) ICT 機器の活用。 (2) 学校 HP の充実。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1-1) タブレット端末の新たな活用。 (1-2) タブレット端末の更なる活用。 (2-1) 学校 HP のレイアウト変更。 (2-2) 学校 HP の更新回数の増加。	
重点目標を達成するための校内組織体制	(1) 情報担当を中心に、タブレット端末の活用について幅広い知識のある者。 (2) 管理職を中心に、情報担当。	
目標の達成に必要な具体的取組	(1-1) 外部機器との接続。 (1-2) 視覚障がい補助具としてのタブレット端末、および電子ホワイトボードの活用。自宅療養児童生徒、または他県視覚支援学校とのオンライン授業の活用。 (2-1) 児童生徒の活動を中心に。 (2-2) 職員会議での周知。各行事担当者への声かけ。	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	(1) 教員からの意見。昨年度との比較。 (2) 管理職、各部主事、教務主任からの意見。	
取組状況・実践内容等	(1-1) タブレット端末に i+Pad タッチャーとスイッチを接続し、重複障がい児童生徒が自らスイッチを押して操作できた。 (1-2) 県推奨の MetaMoJiClassRoom の活用増加や、自宅療養児童生徒、および他県視覚支援学校とのオンライン授業への活用ができた。 (2-1) 学校 HP のレイアウトを児童生徒の活動が中心となるよう変更した。 (2-2) 各行事担当者から積極的に原稿が作られ、更新回数が増加した。	
評価の視点		評価
(1) ICT 機器の活用。 (2) 学校 HP の充実。		A B C D A B C D
成果・課題		総合評価
(1) ▲活用事例が教員に周知できなかった。 (2) ○HP が見やすくなり、更新回数も増加した。		A B C D
来年度に向けての改善方策案	(1) ICT の活用事例を教員に周知する。全盲児童生徒への ICT 機器活用について情報を集め、活用していく。 (2) 引き続き学校 HP を積極的に更新していく。保護者にも周知する。	

学校関係者評価 (令和5年6月22日、同年11月3日、令和6年1月31日実施)

意見・要望・評価等	<p>「学校では、児童生徒の個々の指導に、情報機器を積極的に活用している」「学校はホームページで適切な情報を発信している」の項目で「分からない」の評価が約25%だった。この結果を踏まえ、上記のとおり改善した。</p>
-----------	--